

老朽化問題。吉田寮でよく耳にする単語だ。見ての通り吉田寮は老朽化している。このボロさがいやだという人や、壊れそうで怖いという人もいるかと思う。寮内に残ったかつての学生運動などのビラとあいまった、なんともいえない雰囲気が好きだという人もいるようだ。なぜここまでボロいのか？

時はさかのぼり、1980年頃。このころ大学によって「吉田寮は老朽化して危険なので住むな。今の吉田寮は壊して新しく建て直す」と決定された（実はこれはうそで、実際は単なる自治寮つぶしだった）。しかし、寮生や寮外生、学部自治会をはじめ多くの人たちの反対により中止された。吉田寮が老朽化していたのはその通りなのだが、だったら壊して新しくすればいいという単純な話ではなかったのだ。吉田寮という場所を純粹に安い下宿として、社会問題を考える場として、自分を表現する場として、ほかにも各々の意義を見出して切実に必要としている多くの人が現にいる。そんな場所を何も考えずにこわしてしまうことの何と恐ろしく、またもったいないことか。

しかし、放っておけば吉田寮の老朽化は進み、いずれ本当に壊れて使えなくなってしまうかもしれない。その前に大学によって再び「危険だから住むな」通告がされるかもしれない。どちらにせよ吉田寮に見出されてきた意義はほとんど失われてしまうだろう。そうなるのはたまらないということで、80年代以降老朽化問題の解決が吉田寮の課題となり続け、吉田寮は大学に対して建て替えを要求するとともに、どうすれば意義を守りながら老朽化問題を解決できるか考え、大学に対して主張してきた。2002～2006年頃には今の建物を補修して使い続けるという案が検討され、着工直前まで進んだが、大学内の都合でふいになってしまった。

吉田寮がここまで老朽化してしまった要因としてもう一つ挙げられることに手入れが十分行われなかったことがある。吉田寮のような木造の建築物は定期的に手入れすることが前提である。にもかかわらず大学は十分な手入れを行ってこなかった。これに対して補修して今の建物を使い続ける可能性を探り、実これまで行われなかった個人レベルでできる補修を自分たちで進め、大学に要求しようという運動が寮内で起こっている。